

みずほインベストメントコンファレンス：質疑応答の概要

Q: FinTech が金融機関に与える影響についてどのようにお考えか

A: データの処理能力向上や A.I.の機能強化が進む中、今後、IoT の進展とビッグデータの活用がビジネスを具体化していく上で重要になると考えている。例えばこうした技術の活用で、より低コストで利便性の高い貸出が可能となるかもしれない。

スマートフォンだけで口座開設・借入・送金等ができる時代はもう見えてきており、最終的には駅前の一等地に店舗を置いて多数の行員を配置するようなビジネスモデルは全く変わる可能性がある。

一方、チャネルの非対面化が進むとは言え、運用や遺産相続といったコンサルティングが必要なビジネスについては対面の重要性が一層増すと考えている。そうなると、駅前ではなく、居住地域に土日や平日の夜に営業する店舗を開く等、金融機関の店舗政策も変わっていくかもしれない。今後、この様な潮流をいち早く取り入れた金融機関が優位性を獲得していくと考えている。

Q: マイナス金利の影響についてどのようにお考えか

A: 業務粗利益への影響は通年で 400 億円程度を想定している。現状では、マイナス金利下であるからこそ出てきた企業の財務面でのニーズにお応えすることで、ある程度を非金利収支で打ち返すことが出来ている。貸出に過度に頼らず、非金利収支を強化していくという、みずほの戦略に沿った動きになっていると思う。